

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 10 月 26 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473100760		
法人名	医療法人社団林医院		
事業所名	グループホーム 夕霧の家		
所在地	広島県呉市音戸町畑3丁目20番36号 (電話) 0823-56-1202		
自己評価作成日	平成27年9月30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3473100760-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年10月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的で落ち着いた雰囲気大切にしており、地域と共に歩むということを目指して、入居者様が楽しみながら、持っている力を発揮できるように支援しております。又、地域のお祭りや行事等、積極的に参加し、ボランティアの受け入れを企画することにより、地域交流の促進を図っており、入居者様が毎日楽しく生活が送れるように、職員一同、日々取り組んでおります。又、母体である医療法人を中心にして、関連の各施設と連携を図り、訪問看護を立ち上げており、医療介護サービスが提供できるように確立し、入居者様やご家族に対し、切れ目の無いサービスが提供できるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ここ1年間で頑張った事は、先ず地域交流に関し、昨年町内の納涼祭での盆踊りに車いすの利用者も参加したり、地域のウォーキングに各ユニットから1名の参加もあり、それらに対する利用者の「よかった。また行きたい。」と言う達成感や、地域住民との良い交流が出来た点がある。次に健康管理に関し、暑い時期や寒い時期の散歩は控えたが、毎日のリハビリ体操・嚥下体操で健康管理に留意し、日常の活動性を上げた点である。更に、法人で訪問看護を立ち上げ、24時間医療連携による看護師の定期的な訪問と相俟って、適切な医療が受けられる体制となった点である。今後の課題として、利用者の状態の重度化が進み、散歩やドライブ等での外出が難しくなっているため、外出支援に工夫を要する点や、日々のケアの質を上げるため、内外研修会により、職員のスキルアップを図るための人材育成にあると、管理者は考えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	介護理念のひとつとして掲げ、理念に沿って日々取り組んでいる。管理者と職員共に気付き、思いやる心、やさしい言葉使いの理念を共有し、実践が理念に基づいたものとなるように、日常的に取り組んでいる。	開設時に作成した法人の介護理念を基に、2年前に前管理者により職員に分りやすい形の「思いやり・気づき」にまとめ直し、各フロアに掲示して、常に確認出来るようにしている。朝夕の申し送りで、利用者への対応や状態の変化を職員間で伝達し、日々の振り返りと気づきを意見交換する中で、理念の実践・達成度を評価している。	開設から10年を迎え、職員への理念の周知や実践について、より深く取り組むことにより、更なる向上を期待したい。例えば、理念の下に分り易い具体的な年間行動目標（事業所・職員個人）を設定し、定期的に達成度を評価する案など、理念の深化・定着に努めることで、理念を共有し、実践により強く繋げることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事などに進んで参加し、近所を散歩したり、多くの方々と交流が深まるように努めている。隣接する小規模多機能型居宅介護施設やデイサービスの利用者との交流を行ったり、ボランティアの慰問があるときは、交流を行っている。	事業所は、自治会に加入し、また運営推進会議での情報交換もあり、納涼祭や町内ウォーキング等に利用者も参加して、地域行事に積極的に関り、地域に溶け込む努力をしている。職員との知り合いがきっかけでボランティアのひよっこ踊りなどの訪問もあり、相互交流も為されている。買い物がてらの散歩もあり、近隣との交流が深まるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の奉仕活動や、行事などにも積極的に参加し、お手伝いをしている。運営推進会議や事業所の行事などを通じ、入居者と接していただける機会を持つことで、認知症に対する地域の皆様の理解や、支援をしていただけるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の皆様やご家族に対し、実施した事業サービスを報告したり、認知症についての意見交換、又行事などに対して積極的に意見を聞き、サービスの向上に努めている。	運営推進会議には、時に家族が、また地域住民代表として地区自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員・年に1回、市福祉保健課職員、駐在所警察官が参加して定期的に開催されている。事業所の現況報告や行事報告等が、率直な意見交換と共に行われ、サービスの質の向上に繋げる取組みが為されている。また、参加した関係者や不参加の家族にも「会議結果報告」書を送付している。	遠方に住んでいる家族が多く、参加者が少ない。家族が参加するには距離的な制約もあるが、議事録の「参加者意見」を見ると、本来あるべき議題に対する意見交換が不明瞭である。可能ならば、開催日時をできるだけ多くの家族の参加が得られる日時に調整し、また議事内容も「ヒヤリハット報告や、感染症をテーマにした勉強会」など、参加者の意見を引き出せる工夫をする案等、有意義な会議が開催される事を期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	呉市の同業事業者が開催する勉強会に、呉市の職員の方に来ていただき、助言、指導をしていただき、サービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議には、市福祉保健課職員や包括支援センター職員が参加し、会議後はその「会議結果報告」書を送付して情報の共有化を図っている。また、市主催の「集団指導」（同業事業者への説明会）に参加し、介護保険制度に関する情報収集を行い、サービスの質の向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>研修会に参加したり勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。必要に応じて、専門職の助言を受けながら、拘束をしない支援を、日常的に行っている。</p>	<p>身体拘束排除マニュアルを作成し、事業所内研修で職員に周知している。以前利用者がひとりで出かけることがあった事や市の実地指導で認められた事もあり、日中は、1階ベランダは開放するものの玄関は施錠し、職員が見守りをしている。また極稀に転落防止のため、身元引受人の同意を得て、夜間のみベッド柵の追加と壁で対応することもある。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修会に参加し、ミーティングなどで報告し、勉強会を行い、職員一同、細心の注意を払い、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要に応じて、勉強会や話し合いを持ち、活かせるように努力している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に、入居者やご家族に納得していただけるように、十分に説明を行い、理解をしていただけるように、努力をしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や面会時に意見を聞き、運営に反映させている。言い難いことがあるれば、文章で書いていただけるようにもしている。（御意見箱を置いている）</p>	<p>利用者の意見、要望は、日々の職員との会話を通じて把握し、家族とは面会時、ケアプランの更新時や運営推進会議などで、職員や管理者が積極的に聴くように努めている。要望があれば「意見要望ノート」にそれを記載し、職員間で共有している。また、外部評価の際、アンケート結果を外部から間接的に聞き、全体的に把握する事もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎週ミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。管理者を通じ、代表者へ随時報告され、意思決定が行われている。</p>	<p>朝夕の申し送りの際に、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それを管理者が集約して、週1回、法人本部に各事業所が集まった際、報告・検討・決定が為される。また、日常業務の中で管理者は、随時職員と話す機会を設け、業務上や職場関係での悩みなどに対する支援体制も採っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行ったり、疲労やストレスの要因についても気を配り、心身を休めることができるように、休憩場所や時間を設けている。職員同士の人間関係を把握したり、職場環境の向上に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員は、研修会などに積極的に参加できる環境を作っている。研修後は、研修報告書を作成し、ミーティングなどで報告している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>行事や研修会などに参加し、情報交換を行っている。サービスの質の向上という共通の目的のために、意見交換を行い、質の高いサービスが、提供できるように努めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>本人のニーズを十分に聞き、本人の思いや心身の状態に向き合い、職員が本人の信頼を受け入れられるような、関係作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスの開始までに、本人の生活歴や経験を聞き、どのようにすることが、本人や家族にとって一番良いのかを、考えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前面接に十分時間を費やし、需要と供給、支持的方法を考えている。本人や家族の思いを十分考慮している。できる限り柔軟に対応していくように努めている。緊急性が高いと思われる場合は、他の事業所への紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員が本人に寄り添い、その思いや希望を受け止め、食器洗い、洗濯物たたみ、書き物、掃除等できる事をお手伝いして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の状況報告、夕霧便り、面会時等に本人の様子をお伝えしている。ご家族が来られた時には、一緒に飲み物を飲んでいただいたり、外泊、外出をしていただくなど、よりよい関係が保たれるように、支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域の行事などに参加したり、又、友人、知人の方にも面会等に、来て頂ける雰囲気を作っている。	元々同じ地区に住んでいた方が、法人グループの隣接混合型特定施設に入所した縁で、こちらの事業所の利用者を訪問し旧交を温めた例がある。また、家族宛の年賀状に利用者の名前を書く際、手を添えて手伝う事もある。更に毎月の近況報告を家族に送付して、馴染みの関係が継続するように支援している事が、運営推進会議で評価された事もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲の良い利用者同士の、席を近くにするなど、関わり合いを持つことができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院された場合には、お見舞いに伺ったり、電話による連絡などで、これまでの関係を大切にしている。相談窓口を作り、その後の支援に応じる体制を作っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意見や資料を検討しながら、本人に合ったライフスタイルを検討している。日々の行動や表情から、思いや意思を理解できるように心がけている。	契約時のアセスメントや、家族からの情報を基に、利用者の思いや意向の把握に努めている。職員は利用者の気持ちを大事にしながら、ゆっくり話す時間を作り、その方の行動を理解するよう努めている。例えば、状態としては軽度だが、元々うつ傾向のある利用者に対し、日々声掛けを続け接することで、笑顔も増え、薬も減ってきた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用開始までの、生活歴などを十分に理解し、今までとあまり変わらない生活ができるように、支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタルチェック、睡眠、排泄の有無を確認し、その日の体調を観て、一日の過ごし方を検討している。できることや、やりたいことができるように、できないことはサポートすることで、少しずつでもできるように、ひとりひとりの状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人や家族の思いや意見を聞き、職員全員と関係者で、意見交換や、モニタリング、カンファレンスなどを定期的に行い、介護計画を作成している。</p>	<p>モニタリングについては、毎月、出勤職員や看護師の意見を聞いて計画担当者が集約している。また、それらの情報と面会時に聞いた家族からの情報を計画担当者が集約し、カンファレンスを実施している。会議には職員・医師・看護師・管理者・計画作成担当者が参加し、短期目標は半年、長期目標は1年毎に見直しを行って、利用者が達成感を実感できる介護計画に繋げている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日、個別の記録を記入し、申し送りで入居者の状態を確認している。重要事項や気付きはすべて記入し、職員間で情報を共有しながら、ケアに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人や、ご家族の要望に応じた介護計画を作り、柔軟な対応をしている。同じ敷地内にある、デイサービスや小規模多機能の利用者との交流など、その時の要望に応じている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>入居者が、地域で安心して暮らしていけるように、地域の皆様と連絡をとりながら、必要に応じてご意見を聞き、支援へとつなげている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>健康面で気になることは、ご家族に随時報告し、本人やご家族の要望に応じた、かかりつけ医と連携し、支援している。</p>	<p>入居前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は母体法人の協力医を主治医としている。協力医からは1週間に5度、継続的な往診が為され、更に年1回の定期健診も行われている。24時間医療連携による看護師の定期的な訪問と相俟って、適切な医療を受けられる体制となっている。また、協力歯科医から随時の往診もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	健康面や医療面について、24時間365日、いつでも相談できるようにしており、状況の変化に応じた支援をしている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入居者が入院したときには、本人の支援の方法に関する情報を、ご家族と病院関係者に提供し、早期の退院につながるように、退院後の計画を本人、ご家族や職員で話し合い、支援している。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	入居時に、本人、ご家族、主治医により、終末期における対応を話し合い、明確にしている。日頃から、協力医の指導を受け、状態の報告や相談をして、職員全員で方針を共有した、ケアの実践に努めている。	入居時に本人・家族は、主治医から「緊急時・重度化した場合における対応」「看取り指針」について、書面での説明を受け、共有をしている。また、家族が要望すれば看取りを行なう方針であり、現管理者の下で2例の経験がある。その際には、改めて看取り指針に基づいた「事前確認書」「終末期ケアについての同意書」等に沿って、チームで支援に取り組んでいる。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	医師、看護師の指導のもと、職員全員が対応できるように、定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に活かせる技術を身につけるように、マニュアルを基に取り組んでいる。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	マニュアルを作成し、入居者と職員が定期的に防災訓練や避難訓練などを実施し、連絡体制や、避難路や避難の手順などを確認している。また、運営推進会議などを通じて、協力を呼びかけている。	年2回、利用者も参加し、夜間を想定をした避難訓練も行っている。法人内の隣接する3事業所合同の訓練で、消防計画に基づき、出火場所や利用者の動きも考えた、実践的な内容となっている。また、地域との協力体制についても、災害時には、最寄りの民生委員、駐在所、自治会長等8軒の地域住民に連絡が入り、関係者から協力が得られる状況にある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は、入居者に対して敬意を払い、接するように心がけている。支援の必要なときには、本人の気持ちを考え、さりげないケア、羞恥心に配慮し、本人の尊厳を尊重したケアをこころがけている。個人情報についても、外部に漏れないように職員が徹底している。	「人格の尊重」「プライバシー」に関しては、新人研修時などに職員に説明している。「親しき仲にも礼儀あり」を基本に、普段の会話ではあだ名や呼び捨てはせず、特に排泄や入浴の場面等ではプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。意思の表出が困難な方の思いを引き出す支援についても、職員は日常的な当たり前な対応として理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを大事にすることで、自己決定の支援へとつなげている。意志表示が困難な場合でも、表情や反応から思いを理解し、希望や願いを意図的に引き出せるように、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の思いに沿った生活ができるように、一人ひとりに話を聞きながら、支援するようにしている。入居者の生活のリズムを尊重し、ゆったりとした環境で、本人の意向や要望を聞きながら、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の個性や、希望、好みを尊重し、季節感や清潔感のある、その人らしいおしゃれができるように、ご家族の理解をいただきながら支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員は、入居者と同じテーブルと一緒に食事をしており、入居者ができる範囲内で、調理の準備をお手伝いしていただいたり、食後には、テーブルを拭いたり、後片付けを、お手伝いしていただいたりしている。	献立は管理栄養士により作成されているが、利用者が嫌いな献立の場合は、本人が好きな物を、前にあるスーパーで買って来て対応している。週に1回、おやつでコーヒーを出したり、冬は甘酒やぜんざい等、季節に合わせた物も提供している。また、利用者にも出来る範囲での手伝いをしてもらっている。更に時には家族と一緒に夕食を楽しむ事もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	職員が、一緒に食事することで、一人ひとり特徴を理解し、支援している。食事の摂取量は毎回、確認している。摂取量が少ないときには、医師や看護師に相談したり、食事の形態などを、考えるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	うがい薬を使用して、うがいの支援や歯みがきや、義歯の洗浄を行っており、声かけや、見守りを合わせて行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの身体の状態に合わせた対応を行なっている。できることは見守りをして、できないことは、支援できるようにして、自尊心を傷つけないように支援を行っている。	出来るだけトイレで排泄してもらうように、各人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。自分で出来る事は、やってもらい、尿意がある人はその都度、誘導を行っている。協力医の所入院していた時は、おむつで寝たきり生活だった利用者が、ケアによりトイレで自分で紙パンツを履き、歩けるようになった。そのように、自分なりに生活していく過程で自立していった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、排便の確認をして、便秘気味の入居者には、水分補給や体を動かしたり、食事などにも気を配るようにしている。それでも排便のない人には、内服薬などを服用していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	原則として決めているが、入居者の希望に応じて対応している。入浴の時間も余裕を持っており、楽しんでいただけるようにしている。	週2回、午前入浴を基本とし、各ユニットで入浴日を決めているが、状況により臨機応変に対応している。また利用者の体調や入浴習慣に合わせ、好みの入浴温度や時間に配慮している。排便後、急遽シャワー浴で対応したり、清拭にする等、柔軟な取り組みもしている。季節によっては、柚子湯に浸かって、入浴を楽しめる工夫も為されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	一人ひとりの体調を考慮し、ゆったりと休憩や睡眠をとれるように、支援している。常に清潔を心がけ、安らぐことができる場所であるように、努めている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	入居者に処方されている薬については、医師の指示に従い、職員は入居者の内服薬を確認できるように、ノートを作成し、管理している。また、服用を必ず確認している。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	本人の趣味や余暇の活動を、生活歴やコミュニケーションをとることで、把握するようにしている。本人に合った役割を見つけ、無理をすることなく出番を多く作り、張り合いが持てるように支援している。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	日頃から、入居者の希望を把握し、理解し、買い物や散歩など、外出を心がけている。併設するデイサービスや小規模多機能へ行くなど、施設の中だけで過ごすことが少なくなるように、支援している。	日常的に利用者の希望により、生活用品の買い物や季節の行事食のための食材を購入するため、近くのスーパーやホームセンターに職員と出掛けている。また、お気に入りの犬や猫がいる家に散歩する事もある。更に隣接するグループ内の他事業所に出掛け、交流を深めたり、家族と一緒に外出を楽しんだり、盆正月の外泊の機会もある。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	原則として、現金は所持しないようお願いしているが、入居者の力量を判断しながら対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>プライバシーに配慮しながら、希望に応じて、電話や手紙を出せるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>常に清潔を心がけ、心地良い気持ちになっただけのようにしている。季節に合った花を飾ったり、貼り絵やぬり絵によるカレンダーを作ったりして、季節を感じられるようにしている。</p>	<p>共用空間であるトイレは、職員が毎日掃除をし、出来る利用者にはフロアのモップ掛けを手伝ってもらい、清潔な空間になるよう配慮している。利用者の状態の重度化により、作品作りは難しくなっているが、季節の花を飾ったり、行事毎の写真を掲示して季節感を醸し出している。また、眼前の海、春先の山桜、山の紅葉等、周囲の環境そのものに季節を感じられる環境である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>入居者同士が自由に過ごせるように、ソファや椅子を置き、家庭的でくつろげる空間を設けている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>使い慣れた物や、ご家族の写真などを持参していただき、本人が大切にしてきた物に囲まれ、本人らしい居心地の良い居室作りを行っている。</p>	<p>居室には、ベッド・エアコンを設置し、ベッドは利用者を使いやすい機種や配置に工夫している。居室には、利用者が家で生活していた物をそのまま持ってきてもらい、職員が引き出しに整理ラベルを張った筆筒やテレビ・ラジオなど使い慣れた物、また絵画や家族の写真等、好みの物に囲まれ、居心地よく過ごせる様にしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者一人ひとりの身体の状態に合わせて、物の配置を考えている。入居者の状態が変化したときは、話し合いをして、対策を考えるなどしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム夕霧の家

作成日 平成27年12月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	NO.1	事業所にて介護理念を掲げているが内容が不明瞭である。	もう少し理念を詳しく掲げ職員への周知徹底・実践に努める。	理念に基づいた実践に繋げていく為に行動目標等を掲げ日々、職員同士で共有し、よりよいサービスができるように努める。	
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。